

マスト 【Musth】

http://www.upali.ch/musth_en.html

「マスト（日本ではムストとも呼ばれる）」という言葉は、何を意味しているか？

オスゾウを飼育する問題（難問）で決定的な（最も重要な）要素は、世にいうマストである。マストは、ペルシャ語を起源とし、北部インドの言葉で「中毒状態」として解釈されている。マストという言葉は、人間やゾウかどうかに関係なく、異常行動、あるいは酔っぱらいの行動の特徴を述べる際に使われる。

マストとは、何か？

マストは、オスゾウの行動の周期的な変化を定義するもので、それは、数週間から数カ月に及び続くことがある。この変化は、ホルモンの理由による。マスト期のテストステロン（男性ホルモン）の産生量は、普通の時と比べて、40～60倍である。私が知る限りでは、この現象（マスト）は、オスゾウだけに起こる（とりわけ、アジアゾウのオスで）。

オスゾウは、マスト期にどのように変化するか？

マストは、オスゾウの性格（性状・性質）を、さまざまな面において変える。

マスト期の身体的な徴候は、以下の通りである。

- 側頭部あるいは側頭腺の腫脹
- 鼻の基部の腫脹
- 側頭腺から油のような液体が出て、この液体は、頬を越えて口角（口の端）まで黒い跡を残す
- 強い刺激臭のする汗と尿
- 持続的に尿がしたたり、この尿により後肢の内側が濡れる
- ペニスが全く勃起しない
- 陰茎包皮が、白く緑がかった色になる



マスト期の精神的徴候は、以下の通りである。

- 自閉症的行動
- オスゾウがイライラしている際の爆発的な攻撃行動
- いかなる物音と、オスゾウから見た場合の思いがけない動き（展開）を我慢できない

- マスト期ではない場合には、飼育係の命令に、いつも従っているオスゾウが、マスト期には、飼育係のありふれた命令に、いつものように従わない（なにも反応しない）
- 親密だったゾウたちや、親しかった人間にさえも攻撃を試みる

ゾウたちの世話をする際に、マストはどんな重大性を持つか？

これらの徴候は、オスゾウとの接触（接近・ふれ合い）をかなり難しくさせる。

そして、これらの徴候は、ゾウの飼育係がオスゾウと共に働くことを憂鬱にさせるし、極めて攻撃的なオスゾウは、なにもかも許容せず、実際のところ、飼育係を殺そうとする。



なぜ、マストは危険か？

マスト期の初期には、オスゾウが、なんらの身体的徴候をいつも示さないことは、ゾウの飼育係にとって危険である。このことは、オスゾウと飼育係とが、お互いの体を全く触れ合うことのない特殊なオスゾウ用の獣舎（寝室）において、オスゾウを飼育しなければならないという主な理由の一つである。オスゾウをメスゾウのように直接飼育しようとするならば、遅かれ早かれ（いつかは）、ひどい人身事故が、間違いなく起こるだろう（Bulls and bulls managements と Free Contact の章を参照）。

マストの始まりは、予測できるか？

チューリッヒ動物園のオスゾウ（Maxie）の場合には、マスト期の明らかに約 2 カ月前に、寝室の床面を洗い流す際に、泡立つことが顕著になる。

マストは、オスゾウの発情期か？

動物園の多くの観客たちは、オスゾウがマストになった時が、そのオスゾウの発情期であると考えているが、それは、完全な間違いである。マストは、発情期との共通点が少ない。メスゾウは、一年のある一定の季節に限って発情する動物ではないから（メスゾウは季節繁殖動物ではなく、ヒトのように周年繁殖動物であるから）、オスゾウの発情期は、シカやアンテロープのように解らない。



マストになったオスゾウは、ゾウの群れと一緒に暮らすか？

このことに関しては、マストの期間中、オスゾウをメスゾウと接触させないようにすることが正しいことである。どんな理由かは解らないが、メスゾウたちがマスト期のオスゾウをいらいらさせるので（困らせるので）、マスト期のオスゾウが、メスゾウたちを攻撃するかもしれないという危険性が、あまりに高い。

ゾウの飼育係が、マスト期のオスゾウを制御（コントロール）できない場合（通常、制御できなくなる）、そして、非常に狭苦しい飼育環境の場合において、メスゾウたちと子ゾウたちは、マスト期のオスゾウの攻撃から逃れることができる可能性は全くない。

すなわち、ゾウの飼育係が、（遠隔的な命令で）マスト期になったオスゾウをメスゾウたちの群れから分離できなかった場合、そして、オスゾウを別飼いできる施設を準備していない場合、マスト期のオスゾウは、必ずといってよいほど、メスゾウや子ゾウを攻撃する。また、動物園の狭い放飼場では、メスゾウたちが逃げる場所はない。

飼育係とメスゾウたちの安全を確保するために、オスゾウには、メスゾウたちの寝室や放飼場とは全く別の場所に、遠隔操作で2つに分離可能な強固な寝室とオスゾウだけの放飼場が必要である（Bulls and bulls managements、daily routines、Free Contactの章を参照）。

なぜ、オスゾウは、マストの状態になるか？

実際のところ、マストの目的（意味）については、何も解っていない。ゾウのあらゆる研究者と、ゾウのあらゆる飼育係は、それぞれが、マストに関する自分の意見（見解）を持っている。おおかたの意見（見解）は、自分のテリトリーへのマーキングであり、自分のテリトリーから他のオスゾウたちを追い払い、さらに、身体的により弱いオスゾウが、子孫をつくる可能性を排除するためというものである。マストは、古代のゾウの時代からの遺物（名残）のようであり、それは、近代のゾウまで続いている。

マストを阻止（予防）することができるか？

マストは、病気でも痛みでも全くないので、阻止したり、治療したりすることはできない。マストは、ゾウの自然な行動の一部である。私は、オスゾウがマスト期に気分が良くなるのか、そうではないのか、また、オスゾウが鉄棒に頭を押しつけたり、ひどく荒れ狂ったり、怒ったり、彼一頭だけで居たいと望んでいる場合に、頭痛があるのかどうかを知らな



い。とりわけ、マスト期のオスゾウは、突然の動き（展開）と騒音を我慢できない。その上、尿が、後肢に定期的にしたたり落ちて、皮膚がヒリヒリするために、オスゾウが痛みを感じることは、本当にありそうである。

チューリッヒ動物園で飼育されているオスゾウの「Maxie」のマスト期は、いつも冬である。これは（季節性は）、マストが太陽光と関係があるかもしれない、そういうわけで、日長差を刺激にホルモンを分泌する下垂体の光暴露と関係があるかもしれないという考えに至った。

マストは、使役用のオスゾウに関して、どんな重大性（意味）があるか？

使役ゾウに関して、マストはまた、もちろん、象使い（Mahout）の所得損失を意味する。使役用のオスゾウのマスト期間と、所得損失を最小限に抑えるために、マストになったオスゾウは、徹底的な処置をされる（取り扱われる）。マストになったオスゾウは、2本の丈夫な木に足を縛りつけられ、マスト期が過ぎ去った時にだけ、自由の身になる（繫留を解かれる）。木に繫留されている間、わずかな食餌と水をオスゾウに与えるだけである。オスゾウを、ひどい目にあわせれば、マスト期がより短くなるという考え（知識）は本当のようである。



したがって、使役用のオスゾウのマストの持続期間は、一部の動物園のオスゾウのように5～7カ月ではなくて、数日間である。しかしながら、我々の倫理（理念）と道徳（モラル）は、アジアの使役用のオスゾウのように、我々動物園業界のマスト期のオスゾウを処置する（取り扱う）ことを禁じている。

マストは、ゾウの繁殖（交尾）に関して、どんな重大性（意味）があるか？

マストは、また、ゾウの繁殖（交尾）を害する（損なう）。メスゾウの発情周期は、一年にたった3～4回だけであり、さらに、受胎可能な期間は、その時のわずか3～4日間だけなので（すなわち、妊娠するチャンスは1年にわずか9～16日ほどしかない）、長いマスト期は、ゾウたちの繁殖（交尾）が成功することを難しくするだろう。

マストによる歴史上の惨劇

1866年に、スイスのムルテンでオスゾウが自分の調教師を殺したことで、このオスゾウが射殺（砲撃）されたことは、オスゾウ飼育の歴史の一面を示している。

1866年6月27日の朝、サーカス（アメリカン・トラベリング・サーカス・ベル・アンド・メイヤーズ）の一部として、スイスのフリブール州のムルテンの小さな商店街をオスゾウたちが行進していた。

ゾウの調教師のモファット（イギリス人）は、Weisses Kreuz ホテルのゾウ小屋の前で、マストになったオスゾウによって、苦痛を伴うひどい死にかたをした。しかし、彼は、自分が死ぬ日の明け方（午前3時）以前に、自分が自分のオスゾウによって、空中に放り投げられ、蹴られ、こづき回されながら死ぬとは、決して夢にも思っていなかっただろう（自分のオスゾウに、こんなひどい目に逢わされて死んでしまうとは、本人は、その日まで想像もしていなかっただろう）・・・（続きは、Murten elephant の章を参照）。

